

会報

野々市ロータリークラブ



一歩の前進は学び考え扉を開く

ロータリーは機会の扉を開く

第1963回例会

2020年12月9日(水曜日)

国立工芸館で移動例会

工芸王国に日本の最高峰が集約

頂点と向き合える日々



第1963回例会は移動例会として12月9日、金沢市出羽町の国立工芸館で開催中の「工の芸術 素材・わざ・風土」展を鑑賞しました。師走としては稀有な真っ青な空が広がるなか、参加した会員20人と事務局の計21人は近・現代の国内の至芸に向き合い、心行くまで堪能しました。



国立工芸館は、正式名称は東京・北の丸公園時代の「東京国立近代美術館」の名を残したまま、工芸館部分を「通称・国立工芸館」として、10月25日に金沢市に移転、開館したものです。陶芸や漆芸、染織、金工、木工、竹工など約1900点の作品が所蔵されることになっており、文化勲章受章者、日本芸術院会員、重要無形文化財保持者（人間国宝）など、先人、現役の大家の作品が順次公開予定です。

会長あいさつ

■会長 矢原憲雄様

今年にはコロナ騒動でいろいろな計画が縮小し、大阪ロータリーへの移動例会も中止となりました。そこで木戸さんから今回の国立工芸館への移動例会を提案いただきました。今日は皆さんと一緒に日本の伝統工芸を鑑賞したいと思いますので充分楽しんでいってください。



唐澤館長が解説「それぞれの感性で」



移動例会では鑑賞に先立って、館内の密を避けるため工芸館前に唐澤昌宏館長がわざわざ姿を見せられました。唐澤館長は「色、形、模様などの違いを、みなさんそれぞれの感性で感じ取っていただき、さらに感性を磨き上げてください」「同じ作家の作品をまとめて展示せず、素材・わざ・風土のテーマごとに分けてある意味も考えてみてください」などと解説し、金沢に移転したことで増える鑑賞機会の活用についても呼びかけました。



野々市RC会報

第1963回例会

2020年12月9日(水曜日)

国立工芸館で移動例会(つづき)



館内には、1977年(昭和52年)の工芸館開設に尽力された金沢市出身の人間国宝松田権六氏の作品のほか、仕事部屋が東京・文京区から移

設、復元され、至芸が生まれた空間を見ることができました。このほか、大場松魚、前大峰、川北良造、氷見晃堂、塩多慶四郎、三代徳田八十吉、吉田美統、角偉三郎氏ら石川県出身者、および北出塔次郎氏らゆかりの大家の作品が展示され、参加した会員が食い入るように見つめていました。また前期展には寺井直次、木村雨山、小森邦衛各氏の作品も加わり展示されたと聞いた参加者は、工芸王国石川の層の厚さを感じていました。



【今後の例会プログラム】

- 12/16 クラブフォーラム
- 12/23 年忘れ例会
- 1/6 3RC合同新年例会 ⇒ 中止
- 1/13 日本ツバキ協会 高見重任様

ニコニコボックス

矢原憲雄 国立工芸館移動例会において増強委員会、木戸委員長これまでの準備御苦勞様でした。日本の伝統ある工芸にふれる機会をいただきましてありがとうございます。

齊藤邦博 木戸さん色々ご準備頂き有難うございます。

中村俊昭 国立工芸館での移動例会楽しみです。お世話した皆様ありがとうございます。

濱 順次 木戸さん色々な段取りありがとうございます！

金子武志 工芸館たのしみです。

新保良介 国立工芸館楽しみです。

中川修一 移動例会楽しみにしていました。

中井登喜子 「国立工芸館」見学楽しみです。

木戸喜美夫 「時」は令和2年師走、「天」は蒼き空、「地」は兼六園周辺文化の森、「人」は会員の皆さんが集い「まさに極まれり」の感。

宮川務、榎本いずみ、西村信夫、宮森恒成

計13件 合計22,000円

2020-2021年度累計 741,800円

■ 野々市ロータリークラブ事務局 ■

〒921-8821 石川県野々市市白山町8-15 (公社)野々市市シルバー人材センター2F
TEL(076)294-1232 FAX(076)294-1522 Mail:jimu@nonoichi-rc.jp